

## 事後評価結果（平成24年度）

担当課：東北地方整備局 道路計画第一課

担当課長名：隅藏 雄一郎

事業名	一般国道13号 湯沢横手道路 <small>ゆざわよこて</small>	事業区分	一般国道	事業主体	土交通省 北地方整備局
起点	白：秋田県湯沢市桑ヶ崎 <small>ゆざわ くわがさき</small> 至：秋田県横手市安田 <small>よこて やすだ</small>	延長	29.0 km		

### 事業概要

一般国道13号は、福島県福島市から秋田県秋田市に至る延長約377kmの主要な幹線道路である。湯沢横手道路は東北中央自動車道の一部を形成し、秋田県湯沢市から横手市に至る延長29.0kmの自動車専用道路（延長26.7km）および一般道路（延長2.3km）である。

### 事業の目的・必要性

湯沢横手道路は東北中央自動車道の一部を形成し、国道13号の交通混雑の解消、交通安全の確保および広域ネットワーク形成による産業振興を目的とした事業である。

### 事業概要図

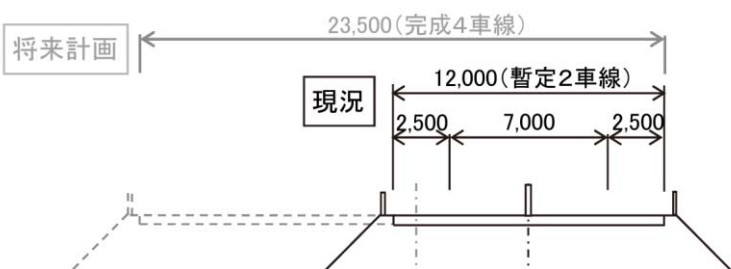
#### 【位置図】



#### 【事業概要】



#### 【標準横断面図】(自)秋田県湯沢市桑ヶ崎



凡 例	
	評価対象区間
	高規格幹線道路
	一般国道
	主要地方道・県道
※二重線区間は4車線道路	

事業の効	事業期間	事業化年度	昭和59年度 都市計画決定 平成5年度	用地着手 工事着手	平成61年度 昭和62年度	供用年 (暫定/完成)	(当初) -/- (実績) H19/-	変動	-倍
	事業費	再評価時 (暫定/完成)	(名目値) 1,098/1,193億円 (実質値) 1,188/1,284億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) 1,098/-億円 (実質値) 1,193/-億円			変動	1.0倍
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	(H14再評価時) -/9,700台/日	実績 (暫定/完成)	(H24) 7,115台/日/-			変動	-%
果等	旅行速度向上 (供用前無料区間現道 →供用後無料区間当該路線)		39.0km/h → 63.9km/h (供用前年次)H11 (供用後年次)H22	交通事故減少 (供用前無料区間現道 →供用後無料区間現道)	24件/年 (H11) → 8件/年 (H22)				
	費用対効果 分析結果 (再評価) ※残事業	B/C	1.8	総費用	794億円 事業費：628億円 維持管理費：166億円	総便益	1,410億円 走行時間短縮便益：1,233億円 走行経費減少便益：128億円 交通事故減少便益：51億円	基準年	平成24年
	費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	1.2	総費用	1,822億円 事業費：1,637億円 維持管理費：185億円	総便益	2,130億円 走行時間短縮便益：1,761億円 走行経費減少便益：257億円 交通事故減少便益：112億円	基準年	平成14年
	事業遅延によるコスト増			費用増加額	-億円	便益減少額	-億円		
	事業遅延の理由	-							
	客観的評価指標に対応する事後評価項目 ●円滑なモビリティの確保 ・新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス性が見込まれる。 ●災害への備え ・緊急輸送道路が通行止めになった場合に大幅に迂回を強いられる区間の代替路線を形成する。 他13項目について効果の発現が見られる								
	その他評価すべきと判断した項目 ・特になし								
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目 ・環境影響評価実施要項（昭和59年閣議決定）に基づき環境影響評価を実施。								
	その他評価すべきと判断した項目 ・特になし								
事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・高規格幹線道路等の整備状況 H20.3 主道寝坂道路 暫定供用 H23.3 新庄北道路 暫定供用 H24 泉田道路 事業化 ・その他 H17.10 横手市、増田町、平鹿町、雄物川町、大森町、十文字町、山内村、大雄村の市町村合併により、新・横手市が誕生 H23.3 東日本大震災発生									
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 ・事業当初の目的に対し効果を発現しており、更なる事後評価及び改善措置の必要はないと考える。									
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 ・特になし									
特記事項 ・特になし									

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものとす。